

平成30年度 医療救護所訓練の課題と対応案

開進第三中学校と大泉西中学校それぞれの医療救護所訓練後、参加者にアンケートを実施した。その内容を基に問題点や課題を抽出し、対応案を以下に列挙する。

1 医療救護所訓練について

No	課題・問題点・意見等	対応案
(1)	講習終了から訓練に移るまでの間に、スライドを使って訓練全体の概要を説明するべき。(医師)	次年度以降、実施に向けて検討します。
(2)	訓練では多くの関係者が集まり何とか対応できているが、発災時にどれだけの人員が割けるものなのか(連絡会)。	限られた人員でも対応可能となるように検証して改善を図ります。
(3)	保健室に見学者や撮影者が多く、動きづらかった。(区要員)	訓練に支障を来たさないよう見学者の人数を決めて交替性にするなど検討します。
(4)	医療救護所と避難拠点を併設するので、訓練を同時開催すべき。そうすることで新しい気付きもあると思う。(全職種)	学校や避難拠点運営連絡会からの要望、また訓練参加者数等を総合的に勘案して決定します。
(5)	傷病者役で参加したが、待機している時間が長く、時間を持て余した。(連絡会)	待機中に区の防災対策の説明をするなど検討していきます。
(6)	講習会の時間をもう少し取って、詳細に説明してほしい。(薬剤師)	事前に資料を送付するなど、限られた時間の中で効果的な運営方法を検討します。
(7)	講習会の内容が盛沢山のため、資料を配付してほしい。スライドを撮影している人も多く見られた。(区要員)	配付できるよう講師と調整します。
(8)	自分が担当した配置以外の役割が分からなかった。見学できるよう検討してほしい。(区要員)	人員の関係で従事者の訓練中の見学は難しいため、他校開催の医療救護所訓練で見学できるよう案内します。
(9)	トリアージタグの記入が訓練のメインになっている。訓練の目的を明確にした方がよい。(看護師)	訓練目的を参加者が確認できるよう企画していきます。

2 医療救護所の運営について

No	課題・問題点・意見等	対応案
(1)	重中等症者処置場所（保健室）に、搬送待ちの患者が多くいることで身動きが取れなくなる。レイアウトは医療職に任せるべきである。（看護師）	災害医療運営連絡会で検討するほか、必要に応じて、四師会にヒアリングを行います。
(2)	医師・看護師等は役割が明確だが、歯科医師や柔道整復師は何をしてよいのか不明確な場面がある。（柔道整復師）	作成中のマニュアルで明確化できるよう検討します。
(3)	トリアージタグとカルテの記入項目が多すぎる。重症者・中等症者については分かるが、軽症者についても、どちらも記入する必要はあるのか。（医師・区要員）	災害医療運営連絡会で引き続き検討します。
(4)	医療職や要員間の連携や情報の伝達については、そもそも連携しようという意識は感じられなかった。（医師）	訓練等を通じて連携の意識を高められるよう検討します。
(5)	医師が到着するまでに、区要員または連絡会が何をすべきなのかを考えておくべきだ。特に重中症者への対応はいかにすべきか。（連絡会）	医療救護所の立上げ準備・負傷者の安全な場所での待機補助・災対健康部への状況報告等を行うこととなっています。区要員に周知するとともに避難拠点運営連絡会のマニュアルに追記を検討します。

3 その他

No	課題・問題点・意見等	対応案
(1)	医療救護所を担当するものに対して、サポートを充実させてほしい。（Q&Aの作成や定期的な研修の実施など）（区要員）	要望を踏まえて検討します。
(2)	自分の登録場所での人数がまったく分からない。他の看護師との交流等一度集まる必要があるのではないかと。（看護師）	区HPに登録数を掲載するほか、要望が多ければ交流会の開催を検討していく。